



身近な水環境の全国一斉調査
第21回 June 2 2024
全国水環境マップ実行委員会



第21回身近な水環境の全国一斉調査結果概要

発行日 2024年12月1日
編集 全国水環境マップ実行委員会事務局
発行 全国水環境マップ実行委員会
発行所 全国水環境マップ実行委員会事務局
問合せ先 全国水環境マップ実行委員会
事務局 みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)
〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202
TEL/FAX: 042-327-3169
E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp
URL <https://www.japan-mizumap.org/>
発行部数 4,000部

やっています。見に来てね

全国一斉調査のX(旧ツイッター)
<https://twitter.com/308v60KPPcJQWc9>



本調査は公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

第21回 2024

身近な水環境の 全国一斉調査

●●笑顔でつなぐゆたかな水辺●●

第21回 調査結果概要 2024

目次

I 調査の背景	P.1
II 調査の実施手法	P.2
III 調査結果の概要	P.3
全国一斉調査諸データの推移	P.4
2024 全国水環境マップ 第21回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.5
2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.6
IV 各ブロックでの調査結果	P.7
北海道地方	P.7
東北地方	P.8
関東地方	P.9
北陸地方	P.10
中部地方	P.11
近畿地方	P.12
中国地方	P.13
四国地方	P.14
九州・沖縄地方	P.15
V 「水環境マップ2.0」の展開に向けて	P.16
VI 継続調査参加団体	P.19
VII 全国水環境マップ実行委員会名簿	P.20
VIII 身近な水環境を調べよう! 第22回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い	P.21
第22回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙	P.22

※「身近な水環境の全国一斉調査」は、毎年6月に統一調査日を設け、2004年から市民団体と河川管理者が連携して、全国の河川や湖沼など身近な水環境の水質を調査しています。本誌は、その結果をマップとしてまとめ、参加者のみなさんのご意見も掲載しました。

調査器材は(株)共立理化学研究所から提供を受けています。

後援 国土交通省 環境省

全国水環境マップ実行委員会

印刷 エキノックス



I 調査の背景

市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていませんでした。このような多くの市民調査の結果を有効に利用するためには統一した調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。



多くの市民や学校の子どもたちが統一した調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉で調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。

【身近な水環境の全国一斉調査のはじまりと10年間のまとめが一冊の本になっています。】

調査を実施するようになった社会的背景からどのようにして全国一斉調査がはじまったのか。そして、どのように全国に広まったのか。これまでのデータのまとめも含めて身近な水環境の全国一斉調査が一冊の本になっています。身近な水環境の全国一斉調査10年の歩みがわかる「見る 知る 調べる水」(全国環境研会誌事務局、2015)は全国水環境マップ実行委員会事務局から定価1,500円(税込)送料別で販売中です。



「身近な水環境の全国一斉調査」は2004年6月に開始され、21年間で延べ139,905人を超える市民や学校の子どもたちが参加し、全国の調査した水辺の延べ数はおよそ114,821地点です。今後もこの調査を継続することで、水環境の保全に関する市民の意識が高まり、さらに多くの地点で調査されることが期待されます。

目的と意義 ~自分たちで調べて、環境保全につなげよう~

1. 身近な水環境を簡単な方法を用い自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
2. 統一したマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
3. 身近な水環境の調査結果をすぐを知ることができる(行政による水質調査結果の公表はおよそ1年後である)。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
4. 河川などの流域で、多くの人が調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
5. 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
6. 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
7. 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
8. 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
9. 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
10. 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。

II 調査の実施手法

調査の概要

調査日：調査日：2024年6月2日(日)を中心に実施
 調査者：調査者：『全国水環境マップ実行委員会』のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加。
 調査内容・方法：調査内容・方法：調査マニュアルに基づき、気温、水温のほか、パックテストでCODを測定。

調査項目

●気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と3種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同一日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ます。また、パックテストでCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することでパックテストの反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

■COD(化学的酸素要求量)

COD(Chemical Oxygen Demandの略称)は試水中にどのくらい酸化される物質、主として有機物があるかを示すもので、水中の有機物量の目安となります。河川水の一般的なCODの値は、きれいな水で1-2mgO/L程度ですが、水が汚れるにつれて値が大きくなります。今回の調査も同一のロット番号(製造番号)のパックテストを用いて、同一試料を3回測定し、その中央値を採用することでより正確な測定値を得ることができます。

※パックテストは、株式会社共立理化学研究所の登録商標です。

調査の手法

●採水およびCODの測定

詳しい採水方法、測定方法は下の二次元コードよりご覧いただけます。



ハンディマニュアル_採水



ハンディマニュアル_測定

ブンセキをもっと身近にする



常に時代に最適な技術をもって世界中の誰でも気軽に水質分析ができる手段を提供し「ブンセキ」という文化として浸透させる事で理想的な社会創造に貢献します



発色させたパックテストをiPhone®で撮影し判定結果を数値化するパックテスト専用アプリ

今すぐダウンロード



水質の簡易分析製品
パックテスト®



目的に合った項目を組み合わせたセット製品



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

https://kyoritsu-lab.co.jp
TEL:045-482-6937

🔍 パックテスト 検索

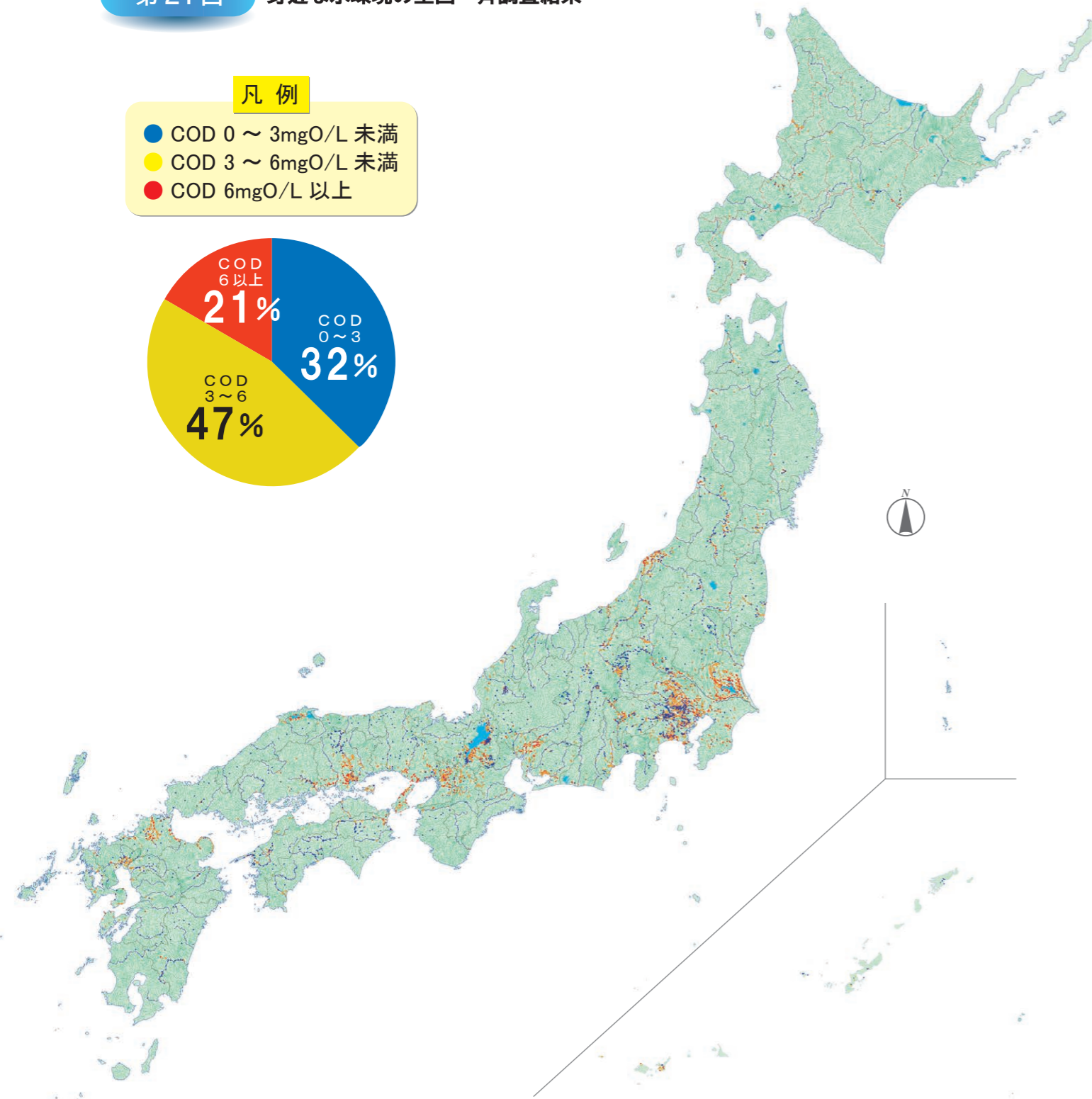
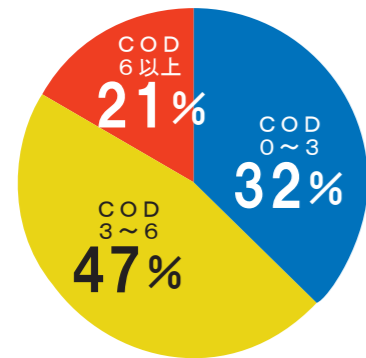
神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク

2024 全国水環境マップ

第21回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

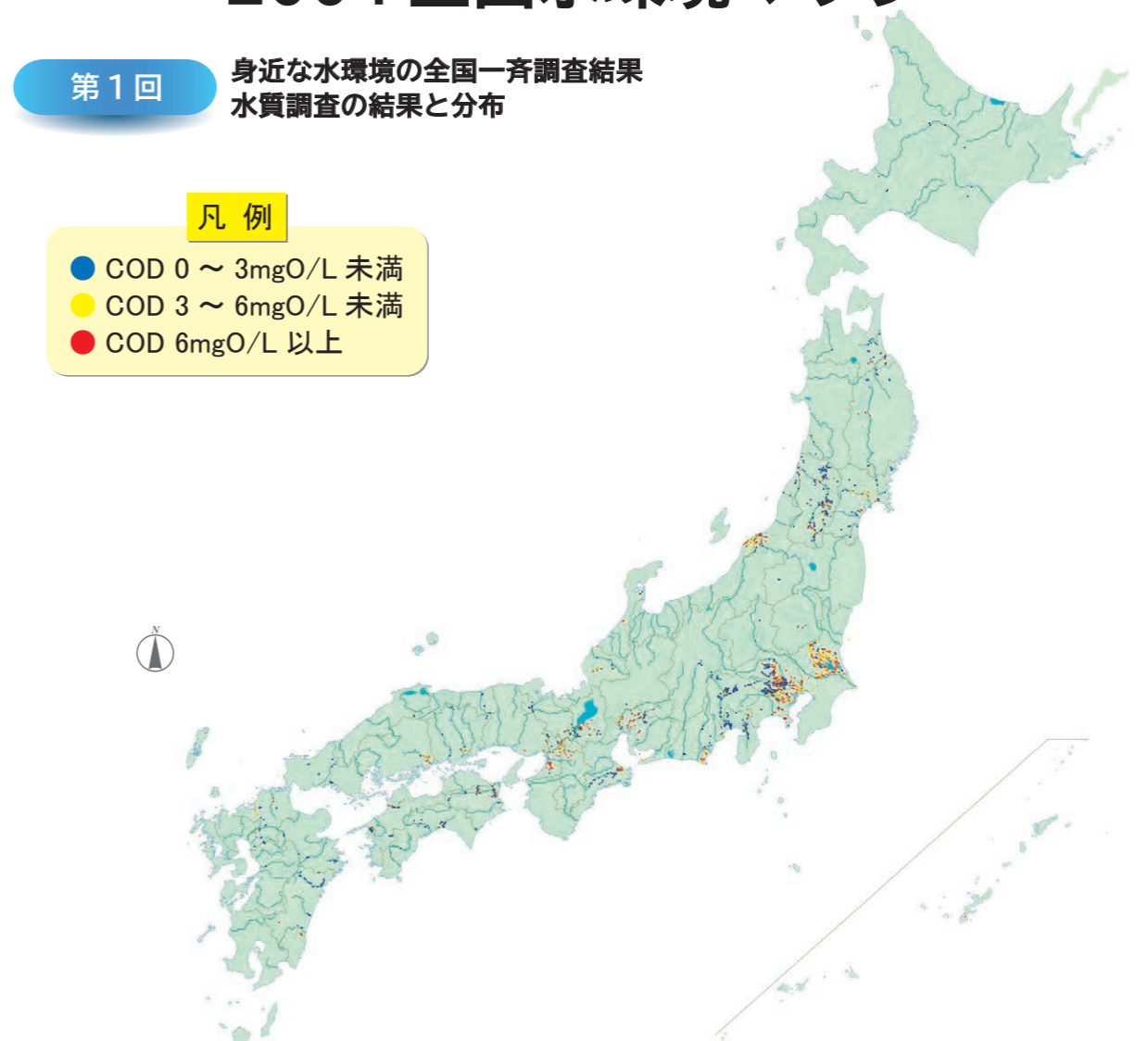


2004 全国水環境マップ

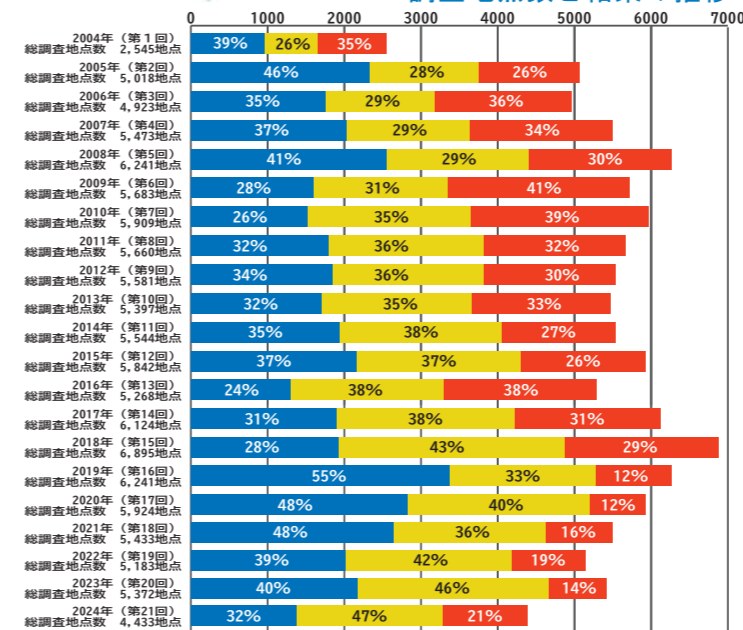
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果
水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



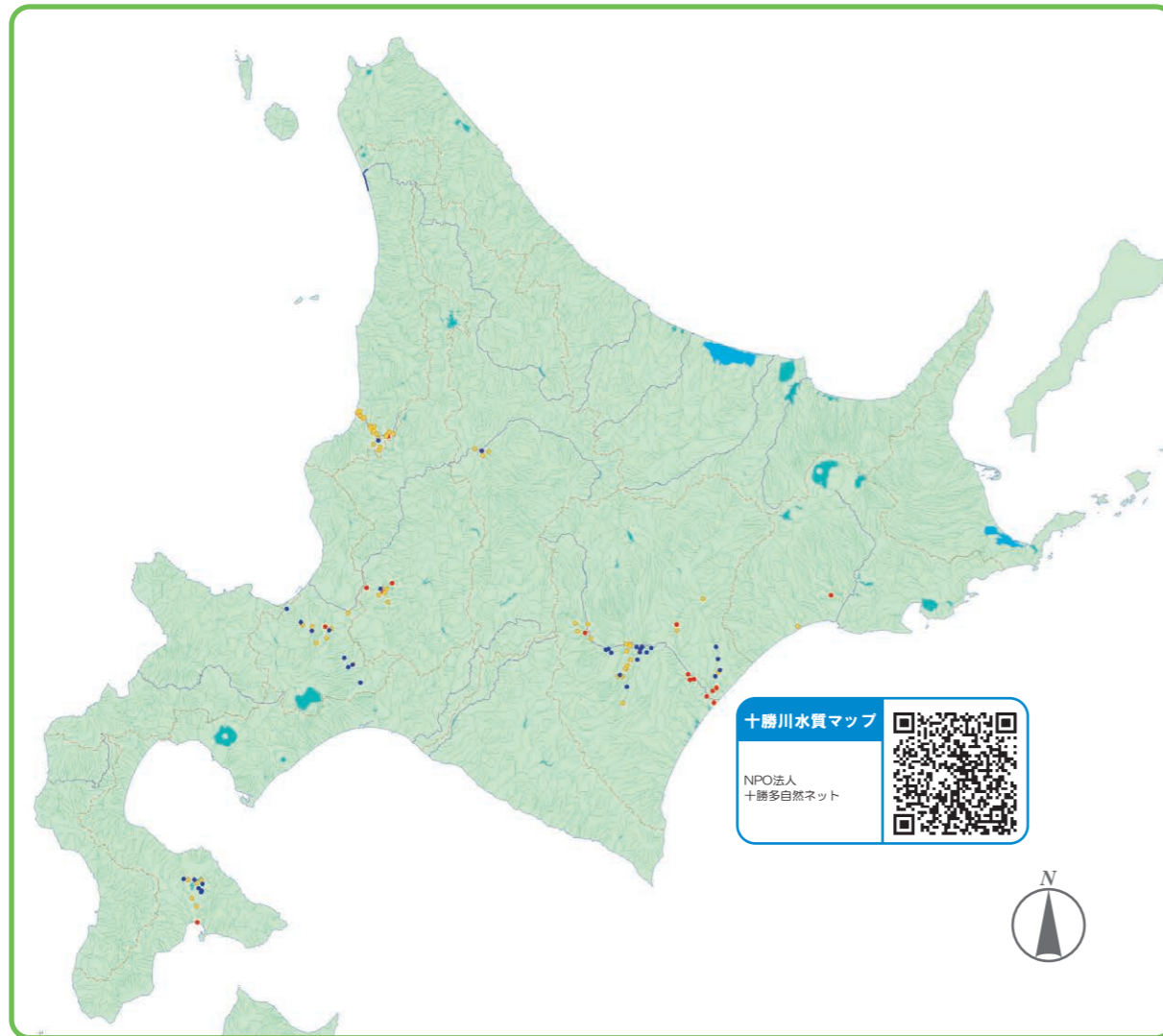
調査地点数と結果の推移



- COD 0～3mgO/L未満
- COD 3～6mgO/L未満
- COD 6mgO/L以上

IV 各ブロックでの調査結果

北海道地方

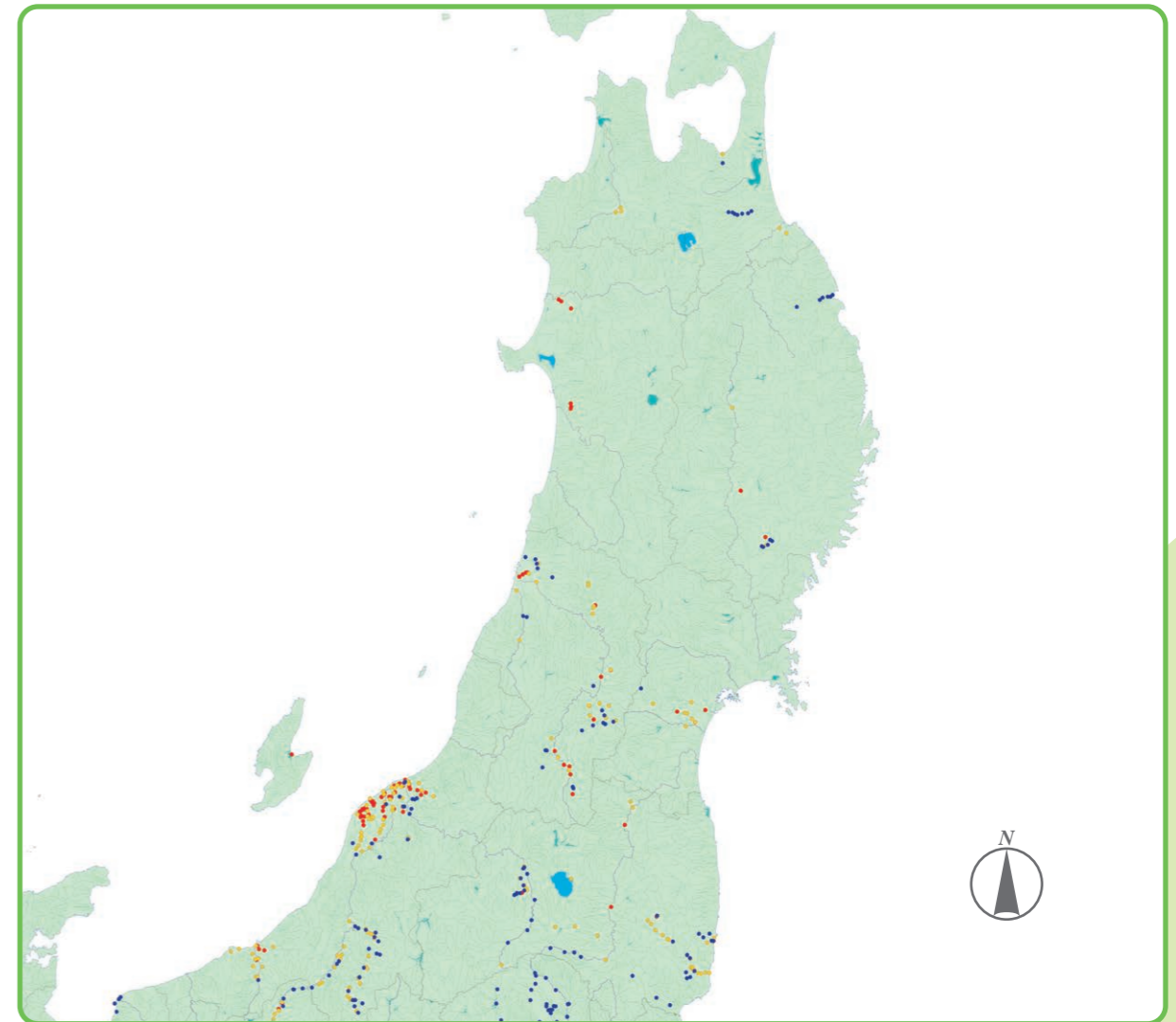


参加者からのコメント

- ・水量は例年通り、流れは穏やかで濁りもなく、散乱ゴミもほぼない。自然豊かな森の中の川でトンボが多くいる。
- ・参加者が多かったことから、より多くの方に計測を体験して頂きたいと思い、C地点で5回測定した。そのために2か所が2回の測定となっている。
- ・年度末に河畔林の伐採が行われた。全伐ではなく列状に残されており、好感が持てる。河岸はクサヨシが繁茂。



東北地方



参加者からのコメント

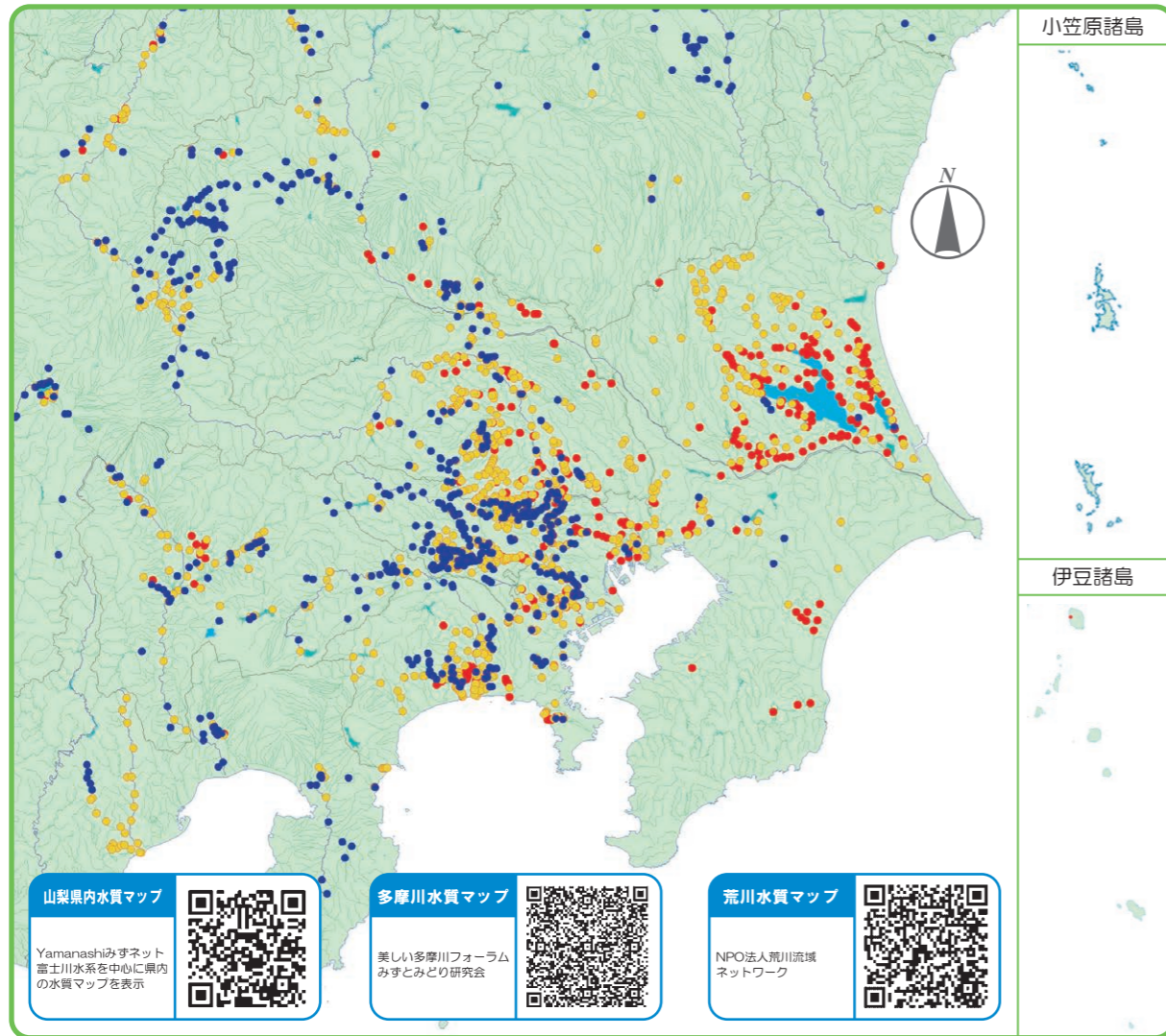
- ・田んぼ沿いの川のため、水門の影響か、昨年に比べて流れが非常に緩やかであった。
- ・ヨシが多かった。バーベキューをしているグループがあった。
- ・パッケンが新規登録団体のみ送付となっていましたがこれについては送付いただけるとありがたかったです。昨年は保管していなかったため。



凡例 ● COD 0 ~ 3mgO/L 未満
 ● COD 3 ~ 6mgO/L 未満
 ● COD 6mgO/L 以上

IV 各ブロックでの調査結果

関東地方

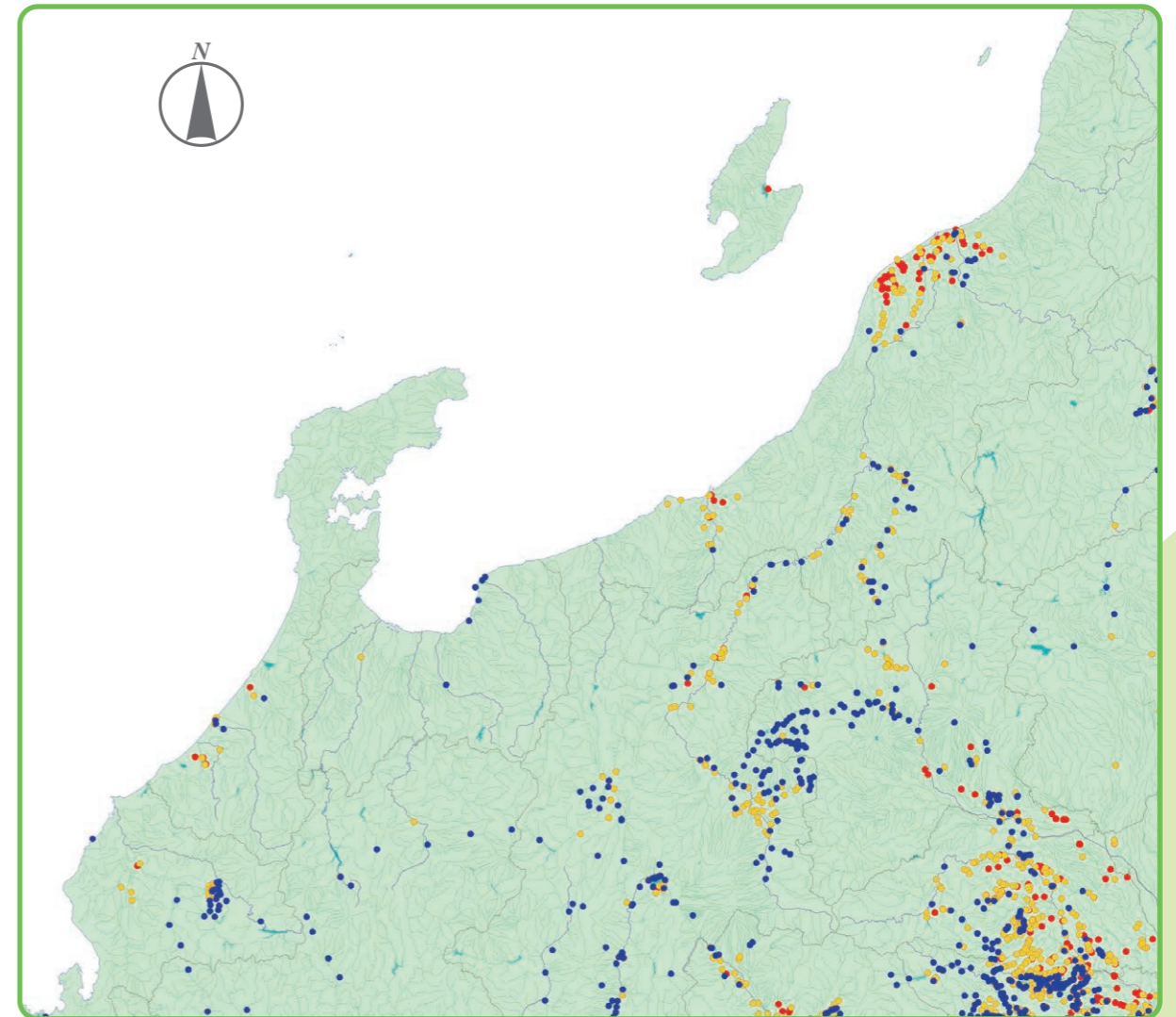


参加者からのコメント

- ・近所の方から、水質調査ですかと声掛け頂く。
- ・子どもがあそんでいる。流量調査を手伝ってもらう。ナミアメンボ。ギシギシ、サンカイ有り。子どもが魚取をしている。
- ・雨が降った後でゴミは殆ど無い。流されたのだろう。プラゴミは少なめ。それでも吸い殻が落ちている。タバコの吸い殻がプラスチックでマイクロプラスチックになる事を知って欲しい。
- ・近くに住む人から「今年はアユを見かけない」との声あり。「昔は上流に牧場があって、糞尿が流され汚かった」とも。



北陸地方



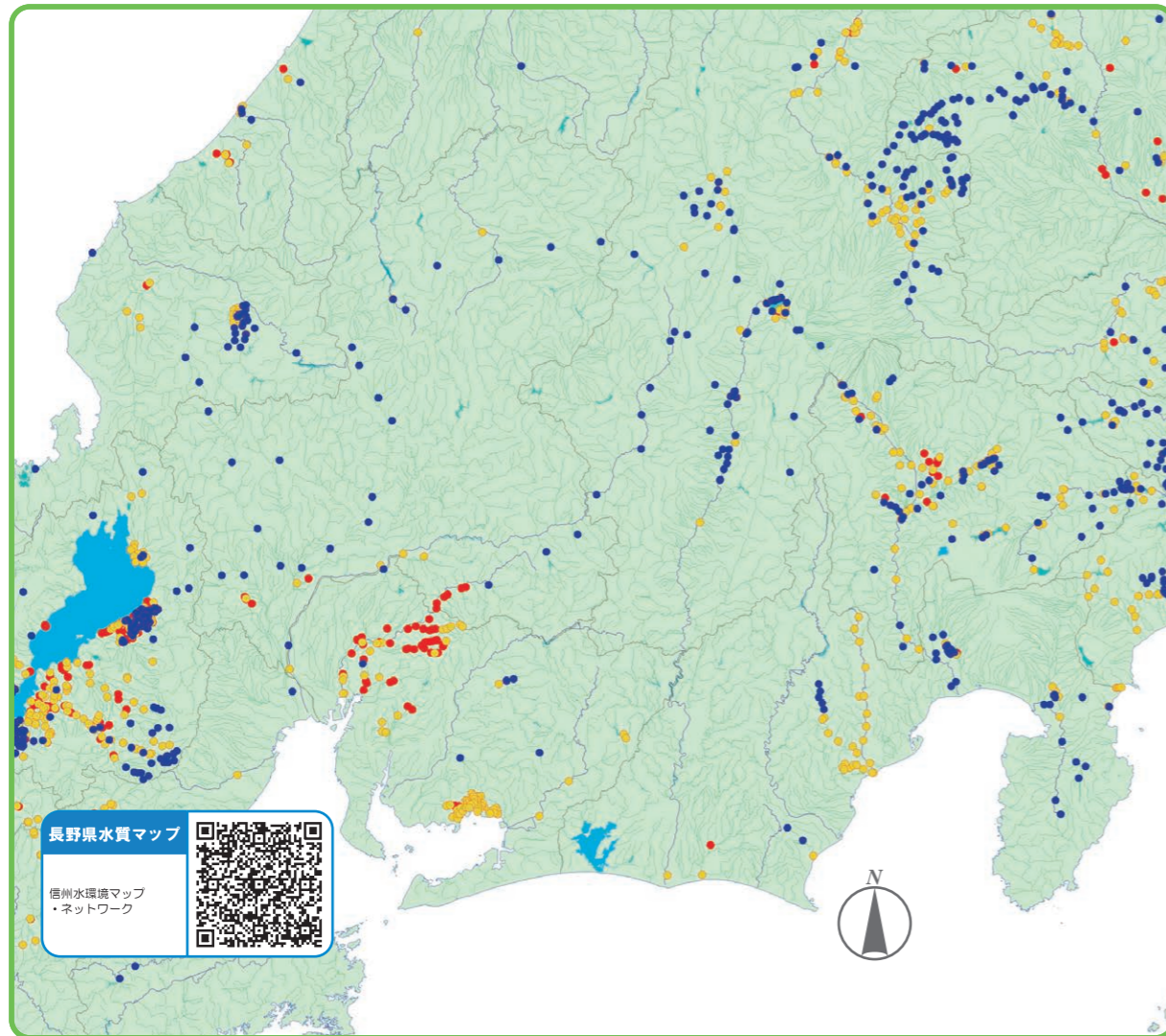
参加者からのコメント

- ・毎年大雨で河原の地形が変わるため本流での採水を意識している。生活ごみ等は見当たらないが流木等はたくさんある。
- ・水量は多い。流れは緩やか。濁っている。ごみなし。
- ・雨により全体に濁りが多かった。今年川ごみは無かった
- ・調査できそうな川がありません。草が茂っていたり川の近くも川まで行く道も難しさを感じます。



IV 各ブロックでの調査結果

中部地方

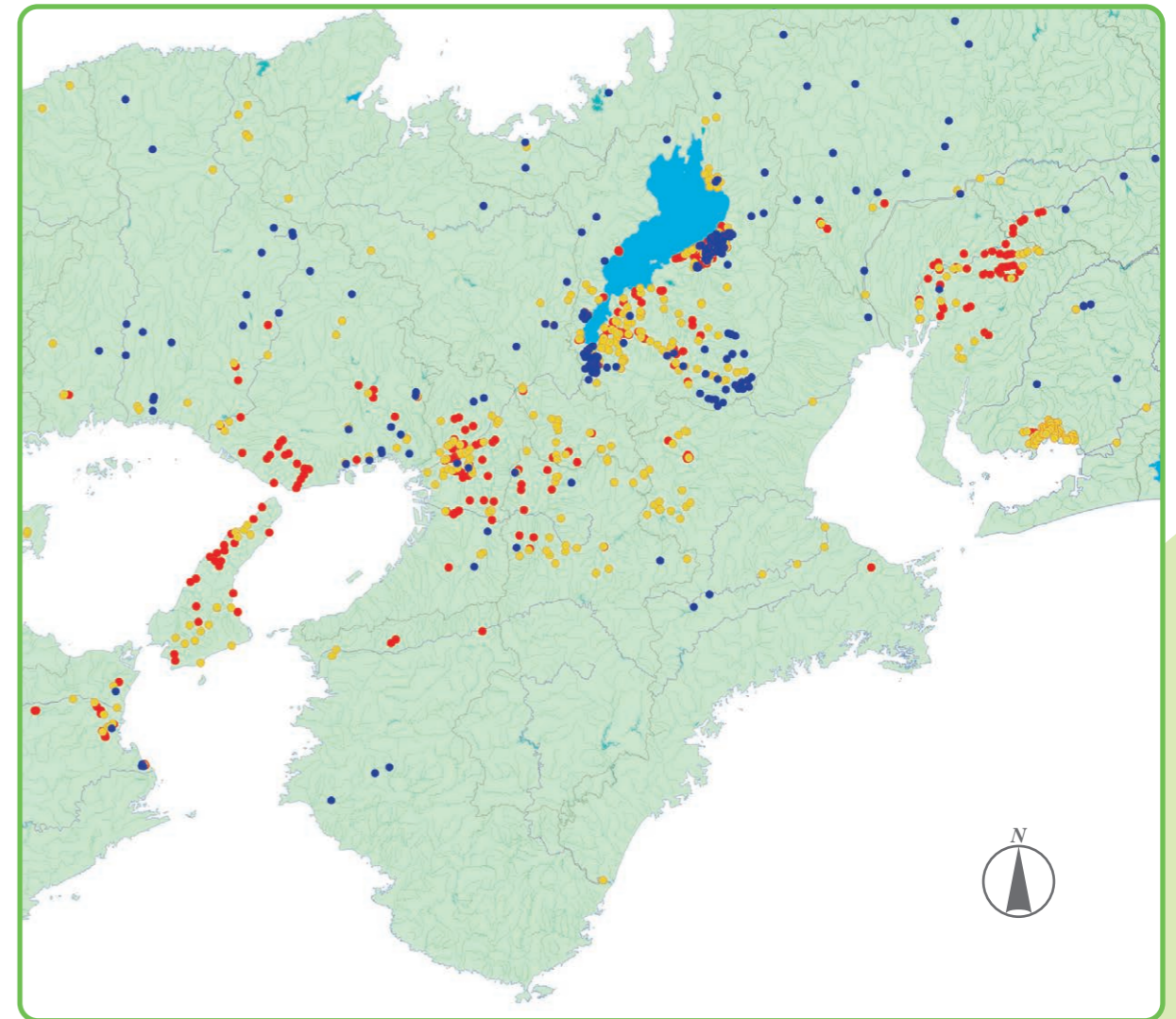


参加者からのコメント

- ・湧水量が多い。川の流が早い。ポイ捨てのごみも多い。アレチウリ有。毎年生きもの観察会をしている。
- ・においなし。ごみ歩くより少し遅い流速の中、小枝の流木3本。水の色、黄灰色。
- ・天気予報雷雨なので早めに実施。9時に大雨。河川工事中流れに変化あり。
- ・豪雨のあとだからかゴミがあまりない。上流の護岸工事完成。川底に人工的な段差を設けておしゃれにしている。



近畿地方



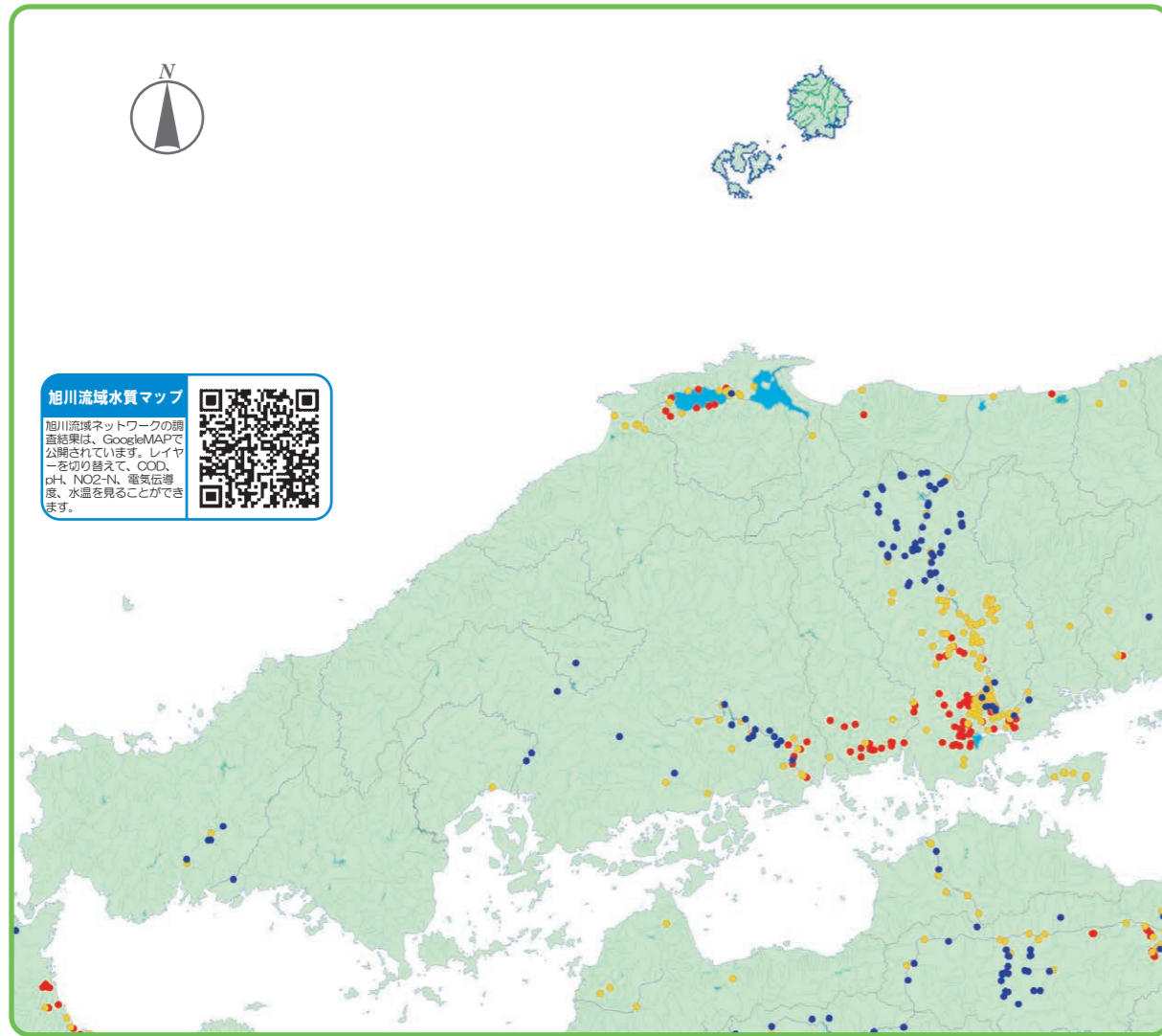
参加者からのコメント

- ・今回、3名の女性会員の参加があり、まず、測定方法のレクチャーからはじめ、慎重に実施。生物調査も興味津々という感がありました。
- ・晴天が続き水量少なく、流れは狭くなっているところで採水。先週は雨が多かったのでプラごみも少なく、小さなものが草や木が引っかかっている程度。
- ・毎年定期的に清掃や外来種駆除を行っている。環境維持されてる。



IV 各ブロックでの調査結果

中国地方



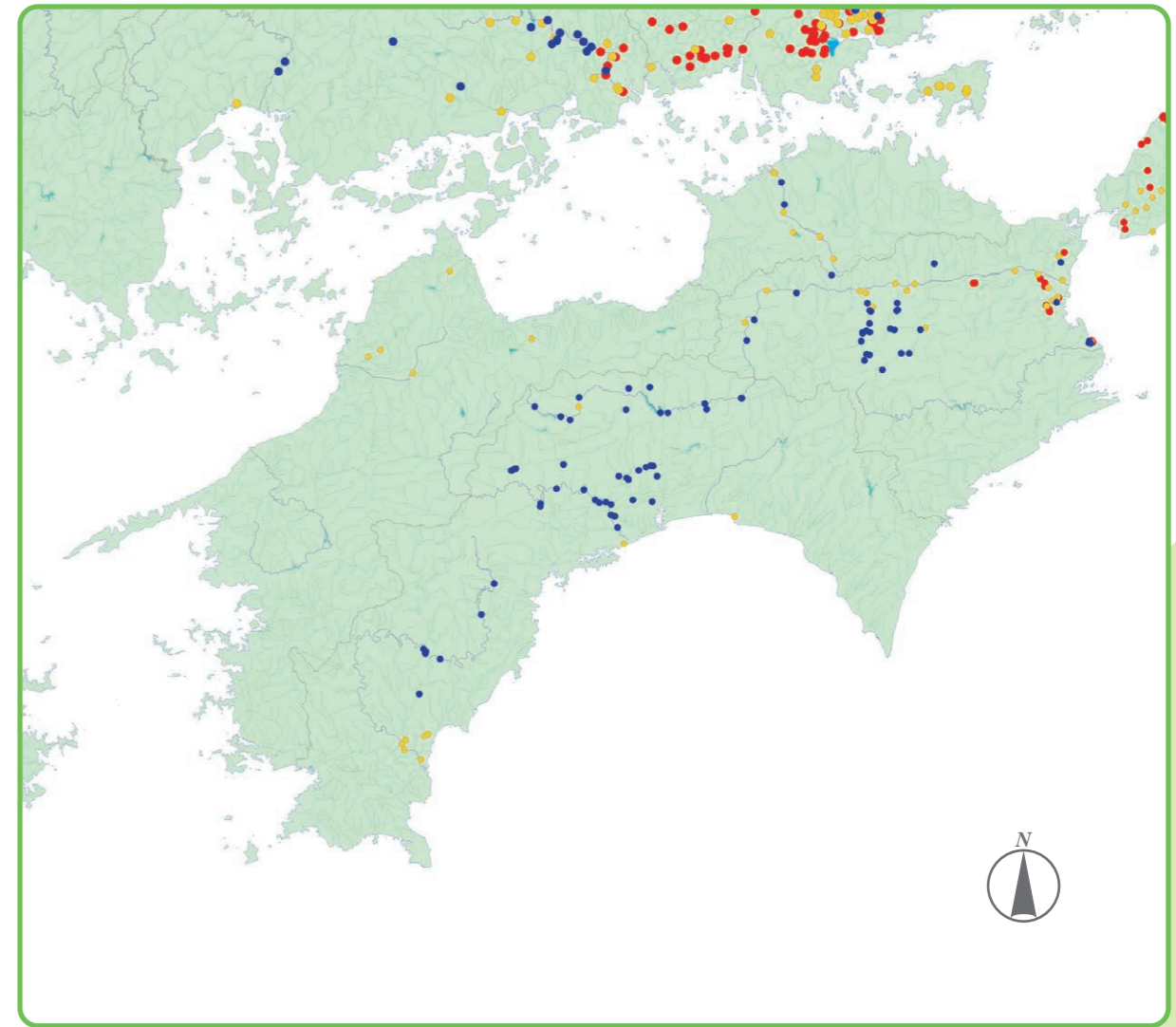
参加者からのコメント

- ・今後も、ライフベストの購入を提言。未実施。(調査員は高齢者が多い為)
- ・耕作による濁りや浮遊ごみ(刈られた植物片等)が少なくなった。
- ・市民ぐるみの日常活動の一環として取り組めるように位置づけたらどうかという意見も生まれてきました。継続して取り組んでいきたいと考えています。



四国地方

- 凡例
- COD 0 ~ 3mgO/L 未満
 - COD 3 ~ 6mgO/L 未満
 - COD 6mgO/L 以上



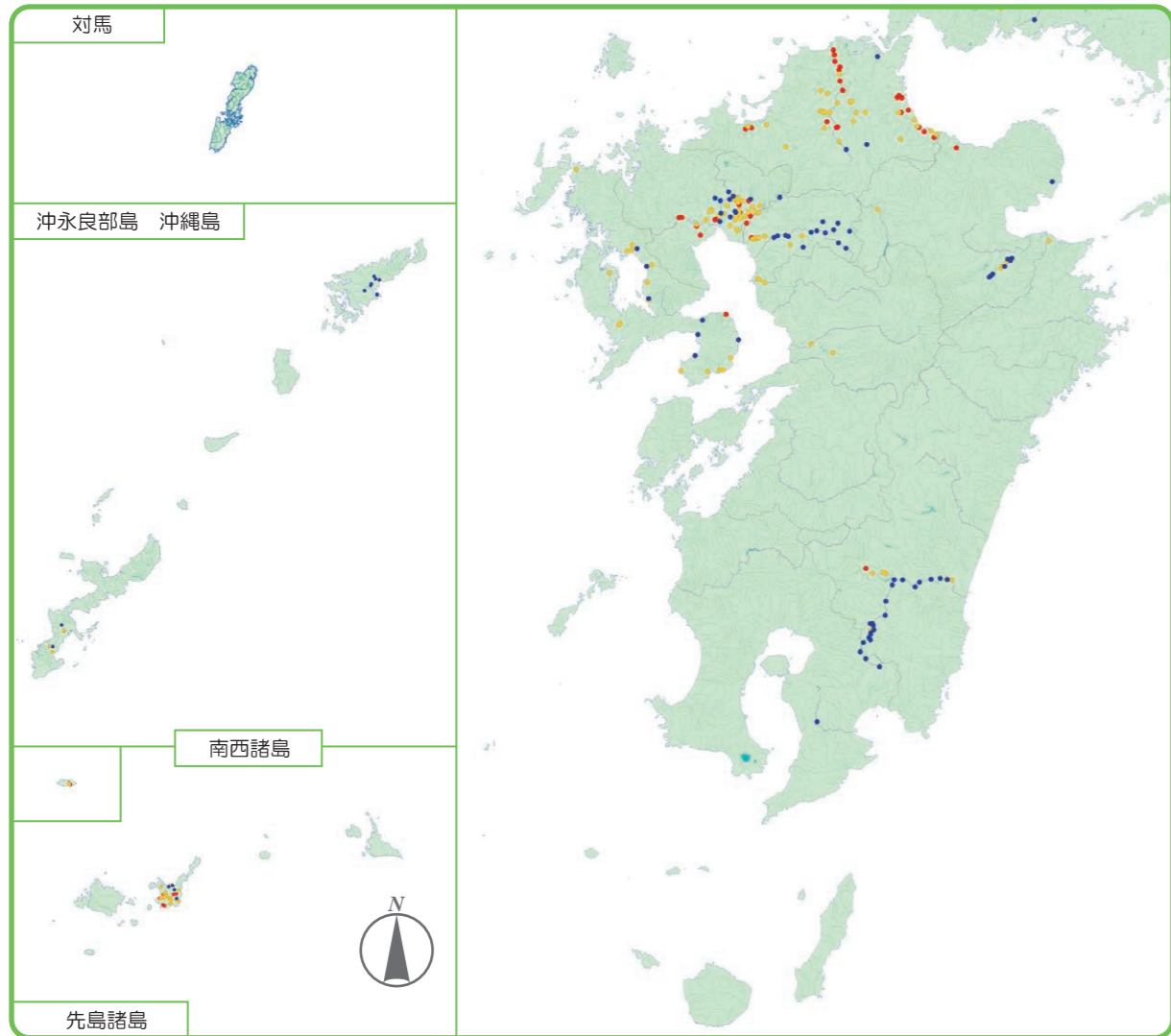
参加者からのコメント

- ・草などの漂着物あり。流れ穏やか。川岸にごみ。家庭散乱ごみ。漂着した花が着床し、たくさん開花。ウチワサボテンなど。
- ・キャンパー・サウナー川の畔でサウナをする人を見かけるようになった。ペットボトルや弁当などのポイ捨てが目についた。
- ・キャンプしたり、水遊びしたり、バーベキューする人が多いと思われるが、ゴミが全くない。



IV 各ブロックでの調査結果

九州・沖縄地方



凡例 ● COD 0～3mgO/L 未満
● COD 3～6mgO/L 未満
● COD 6mgO/L 以上

参加者からのコメント

- ・約 80 cm 上流の可動堰が閉じられており、水量が少ない。濁りなし。慣れてきたのかデータにバラツキなし。
- ・ホタルの発生（飛翔）が早くなっている。温暖化の影響なのでしょうが？
- ・両岸土手の林が育って川が見えにくい。特に下流は水面がほとんど見えない。缶、ビニール、ホースなどゴミあり。水が澄んでいる割に COD が高い。



V 「水環境マップ2.0」の展開に向けて

「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加した皆さんに「水環境マップ2.0」の展開に向けた提案

市民参加型調査活動である「身近な水環境の全国一斉調査」は国内最大規模のネットワーク活動であり、簡易的な水質調査手法を通じて水辺環境に関心を持つ国内各地の市民らをつないでいます。本調査に参加されている方々から、身近な水辺で目にしているプラスチックごみについての言及が度々ありました。

水辺のごみ問題はかねてから指摘されてきたことですが、とくに近年は「マイクロプラスチック」が新たな水質課題として生じてきました。マイクロプラスチックは、洗顔剤などにもともと添加されていたものや多種多様なプラスチック製品が環境中に拡散され微細化したもので、生物や人体への影響が懸念されています。この問題に取り組むため、2015年に国内各地の川ごみ問題に関わる市民らにより「全国川ごみネットワーク」※1が設立されました。

一方、「健全（身近）な水環境」の視点の一つに「水質汚濁に係る環境基準」があります。これは、1970年代に公共用水域の水質汚濁に係る環境基準を、人の健康の保護および生活環境の保全に関して、水域ごとに類型化して生物化学的酸素要求量（BOD）や溶存酸素量（DO）の数値を定めたものです。

水質汚濁問題が改善していくなかで、とくに良好な水辺環境を求める流域市民らの声や自然災害時における生活用水等の確保、生物多様性の保全や流域治水などの多様な課題への対処も求められている時代になってきました。また、健全（身近）な水環境をめぐる新たな課題は、一方で持続可能な地域社会を維持していくことにもつながっています。

そこで、「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加している一部の団体においては、「全国川ごみネットワーク」の活動にも参加されていることもあり、本調査結果概要の中で「水環境マップ2.0」※2の展開に向けた提案をさせていただきます。

ここでいう「水環境マップ2.0」の基本的な考え方は以下のとおりです。

- ✓ 身近に求められる「健全な水環境」とはどのような状態なのか、改めて流域全体を俯瞰して考えるきっかけになること
- ✓ 川に関わる人を増やしたい、川（水辺）の現場に行く機会となる市民参加型調査に参加してもらうきっかけになること
- ✓ 流域毎に「健全な水環境」を探っていく社会的な運動でもあること
- ✓ 流域市民、団体と河川管理者等が協働で作成し、流域環境を見守る体制が強化されること
- ✓ 全国の流域で作成されている「河川ごみマップ」を改訂していく際の一助となること

参考までに、2024年、「水環境マップ2.0」の検討を進める中で関係者による「意見交換会」を重ねて作成した「河川ごとの水環境マップ2.0」のイメージマップをP17-18に掲載させていただきました。今後、本資料を参考としていただき、皆さま方のそれぞれの流域単位で個性ある「水環境マップ2.0」が、多様な関係者の協働による取り組みが展開されていけますよう提案させていただきます。

※1 全国川ごみネットワーク



※2 NPO法人パートナーシップオフィス
2024年度河川基金事業



検討経緯などについての問合せは
<https://npo-po.net/cntct> にご連絡ください。

VI 身近な水環境を調べよう！

第22回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い

次回調査の予定

2025年6月8日(日)を統一調査日として、第22回の全国一斉調査の実施を予定しています。後日、今回ご参加いただいたみなさんに実施のご案内をお送りしますのでよろしくお願いいたします。

風間 ふたば 全国水環境マップ実行委員会 実行委員長

日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと河川管理者などが連携し、毎年6月5日の「環境の日(世界環境デー)」に近い日曜日に実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単なキット(無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(URL <https://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省水管理・国土保全局のホームページ(https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/research/index.html)で公表されています。

実施日 2025年6月8日(日)

測定項目 気温、水温、COD、その他

測定方法 調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)

参加申込と 専用ホームページダウンロードまたはP.22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみ締め切り)に、**2025年3月10日(月)**までにご送付下さい。

締め切り どり研究会)に、**2025年3月10日(月)**までにご送付下さい。

なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

事務局からのお願い

申込後、お手元に水質調査キット類が届きましたら、必ず内容をご確認ください。

※1 調査キットは、参加申込者に2025年5月頃に配布予定です。

問合せ先

○全国水環境マップ実行委員会 事務局

みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp

人と地球の、 美しい未来へ。

私たち積水化成工業がめざすのは、環境と共生しながら、先端素材の技術を未来に生かすこと。人と地球が調和する持続可能な社会の実現に向けて前進していきます。

積水化成工業株式会社

大阪本社：大阪市北区西天満2-4-4 堂島関電ビル
東京本部：東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング

www.sekisuikei.com

SEKISUIKASEI

全国一斉調査 お申し込み先

FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第22回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

参加申し込み用紙はホームページ(<https://www.japan-mizumap.org/>)からもダウンロードできます。 [Q 身近な水 検索](#)

2025年3月10日(月)までに必ずE-mailまたはFAXでお知らせ下さい。

■ これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

過去の参加あり 初めて

■ 参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(個人参加の場合は参加者氏名、ただし個人情報保護の関係で個人名の公表は致しません)

変更前のグループ名

■ 参加グループの連絡責任者 (個人参加の場合はご記入の必要はありません)

■ 連絡先 (グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など)住所、電話、FAX、E-mail(特にE-mailアドレスははっきりとお書き下さい・携帯電話のE-mailは不可)

住所: 〒

電話

FAX

E-mail

■ 調査予定地点名 河川名など 例) ○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■ 河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒にご提出ください。(専用HP上の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

はい いいえ

■ 調査予定日 ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

6月8日に実施する 6月8日に実施できない【その場合の予定 月 日】

■ 調査予定地点数 水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

地点 (水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください)

■ 参加申し込みの確認は3月17日以降ホームページ(<https://www.japan-mizumap.org/>)でできます。

※調査の風景などの写真送付にご協力ください。お送りいただいた写真はパンフレットやホームページに使用させていただきます。

協賛企業等を募集しています

協賛いただいた企業、団体につきまして広告を結果概要パンフレットに掲載させていただきます。当結果概要パンフレットは身近な水環境の全国一斉調査に参加した皆さまや関連団体などに毎年配布しています。詳しくは、全国水環境マップ実行委員会事務局までご連絡下さい。